

土木工事検査書類作成マニュアル

令和8年3月

横浜市道路局

目 次

1	検査に必要な書類一覧表	1
2	施工計画書作成の要点と例	2
3	打合せ簿について	16
4	材料関係（材料確認書ほか）	22
5	使用材料総括表（例）	24
6	工事数量計算書について	25
7	出来形管理関係	26
	(1)出来形管理表	27
	ア 車道舗装工（例）	27
	イ L形側溝工（例）	28
	(2)検査合格判定表（出来形）	29
	ア 路床改良掘起し検査合格判定表（出来形）（例）	29
	イ 路盤掘起し検査合格判定表（出来形）（例）	30
	ウ 抜き取りコア検査合格判定表（出来形）（例）	31
	(3)路面の平坦性試験について	32
	(4)ICT 施工の出来形管理図表	32
8	品質管理関係	33
	(1)アスファルト混合物温度管理表（例）	34
	(2)レディーミクストコンクリートの品質管理表（例）	35
	(3)検査合格判定表（品質）	36
	ア 路床改良検査合格判定表（品質）置換工法（例）	36
	イ 路床改良検査合格判定表（品質）安定処理工法（例）	37
	ウ 路盤締固め度検査合格判定表（品質）（例）	38
	エ 合材締固め度検査合格判定表（品質）（例）	39
	オ 合材抽出アスファルト量・粒度検査合格判定表（品質）（例）	40
9	発生土・廃材関係書類について	41
10	工事履行報告書（例）	43
11	使用材料集計表（例）	44
12	検査に必要な図面について	45
13	工事台帳（作成例）	46

■注意事項

工事検査書類作成マニュアル（以下「マニュアル」とする）は、道路局（区を含む）が発注する請負工事等に適用する仕様書等の一つであり、契約事項となります。書類作成にかかる受発注者の負担軽減や合理化を図るための取組を示した「工事関係書類一覧表（土木工事編）」、「工事関係書類簡素化の手引き（土木工事編）」、「工事書類作成の手引き（土木工事編）」（以下「簡素化手引き等」とする）とは位置づけが異なります。

なお、令和8年4月のマニュアル改定では、それまでのマニュアルにおける書類の取りまとめ方を踏襲しつつ、簡素化手引き等においてポイントとなる事項を適宜取入れ、一定の簡素化が図られる内容になっています。管内一円工事以外でさらなる簡素化を目指す場合は、簡素化手引き等を併せて参照しながら検査書類を作成してください。

また、令和8年4月の機構改革に伴い、本マニュアル内にある「道路局」の記載は、令和8年4月以降は「道路・交通政策局」と読み替えてください。

1 検査に必要な書類一覧表（舗装工事の例）

（ I 工事： II 工事以外の市単独工事
II 工事： 国庫補助工事 ）

項 目		I 工 事	II 工 事
施工計画書		検	検
打合せ簿		検	検
工事数量計算書		検	検
材料確認書・打合せ簿（材料関係）		検	検
使用材料数量表		検	検
各種配合設計書・成績表等		検	検
検査に必要な図面			
	管理位置図（検査合格判定に関する位置）	検	検
	平面図・縦断図・横断図・構造図・出来形図等	検	検
出 来 形 管 理	出来形管理表（丁張り・寸法管理）	検	検
	その他の管理データ	検	検
	検査合格判定表（出来形）		
	路床改良掘起し検査合格判定表	検	検
	路盤掘起し検査合格判定表	検	検
	抜取りコア検査合格判定表	検	検
	路面の平坦性	検	検
品 質 管 理	A s 混合物日常管理報告書	検	検
	品質管理表		
	（A s 温度管理表）	検	検
	（レディーミクストコンクリート各試験管理）	検	検
	その他の管理データ	検	検
	検査合格判定表（品質）		
	路床改良検査合格判定表 置換工法	検	検
	路床改良検査合格判定表 安定処理工法	検	検
	下層路盤締固め度検査合格判定表	検	検
	上層路盤締固め度検査合格判定表	検	検
合材締固め度検査合格判定表	検	検	
	抽出アスファルト量・粒度検査合格判定表	検	検
発生土・廃材の処理		検	検
工事履行報告書		—	検
材料納入集計表・各種伝票		—	検
工事写真		検	検
施工体制台帳・施工体系図		検	検
工事台帳		監	監

- : 添付の必要なし。
 監 : 監督員が確認する。
 検 : 監督員・検査員が確認する。

2 施工計画書作成の要点と例

施工計画書は請負人が実施する工事の手法の概要を監督員に知らしめることにより円滑な工事の促進を図るもので、土木工事共通仕様書の1-1-4 施工計画書で規定しており次の事項について記載する。なお、週休2日等各種要領等に基づき記載が求められているものについても記載すること。

- (1) 工事概要
- (2) 計画工程表
- (3) 現場組織表
- (4) 指定機械
- (5) 主要船舶・機械
- (6) 主要資材
- (7) 施工方法（主要機械，仮設備計画，工事用地等を含む）
- (8) 施工管理計画
- (9) 安全管理（安全訓練等の実施を含む）
- (10) 緊急時の体制及び対応
- (11) 交通管理
- (12) 環境対策
- (13) 現場作業環境の整備（建設現場の現場環境改善計画を含む）
- (14) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処分方法
- (15) その他

※ 作成上の注意

- 1 施工計画書は、施工前に監督員と施工者との間で、施工方法や管理方法を確認するための書類であり、設計図書や現場条件などを考慮したうえで作成するようにする。
- 2 工事の種類、規模、工期等により(1)～(15)について必要のないものは省略することができる。（準備工の例；(3), (7), (9), (10), (14)、管内一円工事の例；(1), (3), (5), (9), (10), (14)）
- 3 重要な変更及び新工種等が生じた場合は、変更施工計画書を作成して提出する。また、工期の変更の場合は工程表を添付する。
- 4 数量のわずかな増減等の軽微な数量変更については、変更施工計画書を省略することができる。（工期末精算変更、1か月程度の工期の変更等）
- 5 作成例は標準的なものであり、内容に応じて順番を変更したり、様式を工夫して作成してよい。
- 6 提出方法は、ASP（情報共有システム）の活用を原則とするが、書面の場合は1部を提出し、受領者は押印してコピーを保管、原本を返却する。

(例)

施 工 計 画 書

工 事 名

〇〇区〇〇町地内〇〇工事

〇〇年〇〇月

〇〇建設株式会社

目 次

- 1 工事概要
- 2 現場組織表
- 3 使用機械
- 4 使用材料
- 5 施工方法
- 6 施工管理計画
- 7 緊急時の体制
- 8 交通管理
- 9 安全管理
- 10 仮設備計画
- 11 環境対策
- 12 現場環境改善計画
- 13 再生資源活用計画
- 14 工程表
- 15 その他

1 工 事 概 要 (例)

工 事 名

〇〇区〇〇町地内〇〇工事

工事場所

〇〇区〇〇町〇〇番地先

工 期

自 〇〇年〇〇月〇〇日

至 〇〇年〇〇月〇〇日

請負金額

¥

円

発 注 者

横浜市〇〇局・区〇〇部〇〇課

監 督 者

〇〇区〇〇土木事務所

請 負 人

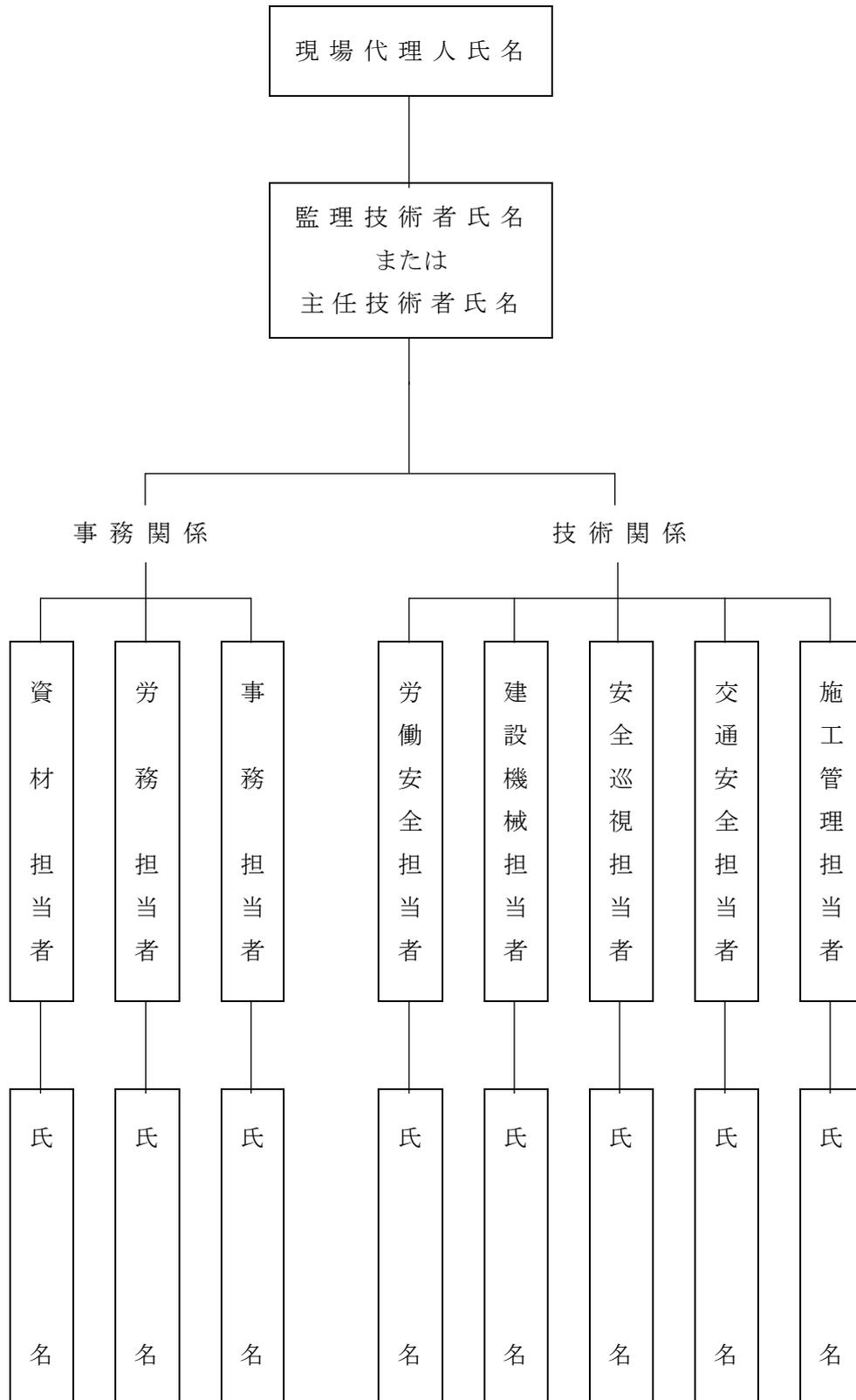
〇〇建設株式会社

工 事 内 容

工 種	細 別	単 位	数 量	摘 要
準 備 工				
舗装切断工	As t=10 cm	m	1,178	
舗装版取壊し工	As t=10 cm 込	m ²	101	
運 搬 工				
廃材運搬工	As 2t-2 km 10t-10 km	m ³	57	
舗 装 工(車 道)				
急 速 施 工	t =15 cm	m ²	2,288	

※ 細別については、請負人の施工する内容で記入する。

2 現場組織表（例）



3 使用機械（例）

機 械 名	規 格	台 数	備 考
バックホウ	0.6 m ³	1	排出ガス対策型
ジャンボブレーカ	0.6 m ³	1	〃
ブルドーザ	3 t 級	1	〃
タイヤローラ	8～20 t	1	〃
マカダムローラ	10～12 t	1	〃
Asフィニッシャ	2.4～5 m級	1	〃

※ 設計図書に指定された機械はそのまま記入し、その他については請負人が使用する機械を記入する。

4 主要材料（例）

品 名	規 格	予定数量	製 造 業 者	品質証明	材料確認書
生 Co（高炉）	18-8W/C60%以下 (JIS A 5308)	5m ³	○コンクリート(株)○工場	配合計画書	
生 Co（高炉）	24-12W/C55%以下 (JIS 以外)	20m ³	○コンクリート(株)○工場	配合計画書	○
異形鋼棒	SD345,D13	1t	○工業(株)	ミルシート	
再生粒度 調整碎石	RM-40	10m ³	○興産(株)○市○産	試験報告書	

5 施工方法（要点）

施工方法で記載すべき内容としては下記のものがある。

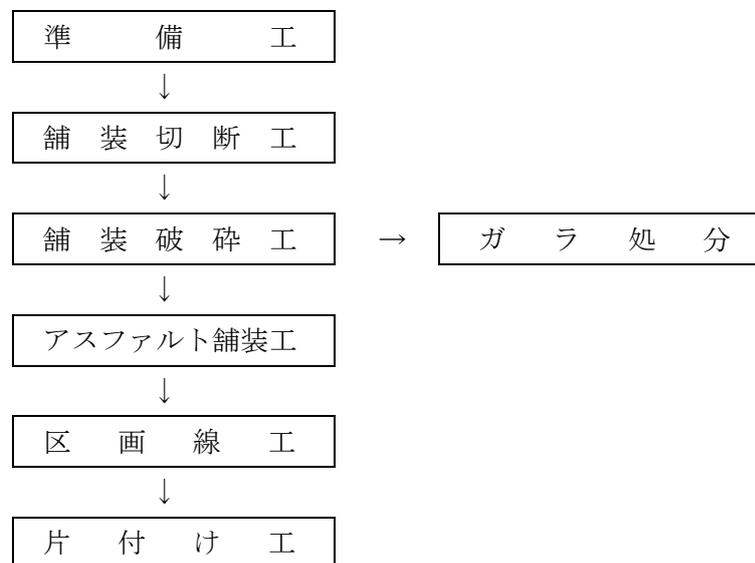
- (1) 全体施工フロー
- (2) 準備や重要な施工条件（作業時間、交通規制等）
- (3) 「工種」ごとの作業手順、施工実施上の注意事項等
- (4) 予定外作業に関する事項

「工種」の記載に当たっては原則として、施工条件、作業手順、使用機械、施工実施上の安全管理や施工管理項目等について要点を簡潔に記載する。

また、記載工種は次のような場合を標準とし、軽微なものは省略できる。

- (1) 主要な工種
- (2) 設計図書で指定された工法
- (3) 土木工事共通仕様書に記載されていない特殊工法
- (4) 施工条件明示項目で、その対応が必要とされてる事項
- (5) 特殊な立地条件での施工や、関係機関及び第三者対応が必要とされる施工
- (6) 指定仮設、または重要な仮設工に関するもの

全体施工フロー（例）



準備や施工条件（例）

- ・ 準備工として縦横断測量を実施し、周辺住民への周知等を行う
- ・ 作業時間は昼間施工（8:00～17:00）とし、片側交互通行（取付道路は通行止め）とする
- ・ 近隣に小学校があるため、登下校時の作業については学校関係者と協議し、結果を打合せ簿で提出する

工種ごとの作業手順及び注意事項（例）

アスファルト舗装工

施工方法	施工詳細	備考
①As 乳剤散布 (プライムコート)	As ディストリビュータ 細部はエンジンプレーヤー 材料 PK-3	散布量 1.20L/m ² 付着抑制のため砂散布
②As 合材敷均工	As フィニッシャー (2.4~6.0m) 細部は人力施工 材料 再生密粒度アスコン (13) 運搬 ダンプトラック 10 t	
③As 合材転圧工	振動ローラー4 t タイヤローラー10 t 細部は振動プレート、ランマー	初期転圧温度 158~168℃

作業上の注意点

No○付近は幅員が狭いため、施工機械や保安対策などを別途検討し、打合せ簿を提出する
縦継目、横継目及び構造物との接合面に瀝青材料を薄く散布する
冬季の施工となるため、保温シートを2重にかけて合材温度の低下を防ぐ
舗設を連続進行できるようなサイクルタイムを考慮した作業速度とする
交通開放温度は50℃以下とする

予定外作業や作業間の段取り替えなどについて（例）

- ① 作業計画及び作業手順を決定してから作業を行う
- ② 作業計画及び作業手順の決定に当たっては十分な安全対策を講じる
- ③ 元請負人（現場代理人等）が「適切な安全対策の講じられた作業計画及び作業手順が決定していること」を確認する

6 施工管理計画（例）

土木工事施工管理基準により「出来形管理」「品質管理」「写真管理」を行う
管理基準にない工種に関しては、国土交通省管理基準などを参考に協議により定める

出来形管理

測定対象	管理方法	規格値		測定基準
As 表層工	寸法測定	厚さ	-7 mm以内	No1、3、5、7
	コアー	厚さ（個々）	-7 mm以内	3カ所（1本提出） （位置は指示による）
		厚さ（平均）	-1 mm以内	

品質管理

測定対象	管理方法	規格値		測定基準
As 表層工	コアー	密度（個々）	94%以上	3カ所（1本提出） （位置は指示による）
		密度（平均）	96.5%以上	
	合材温度	到着時	145～165℃	トラック3台ごと 認定合材推奨温度
	初期転圧時	135～155℃		

写真管理

工種	種別	管理項目	撮影基準	
着工前		全景又は代表部分	施工前	
完成		密度（平均）	施工後	
施工状況	舗装版切断	切断状況	施工中	適宜
	舗装版取壊し	取壊し状況	施工中	適宜

その他必要に応じて、段階確認、確認・立会の計画を記述する。

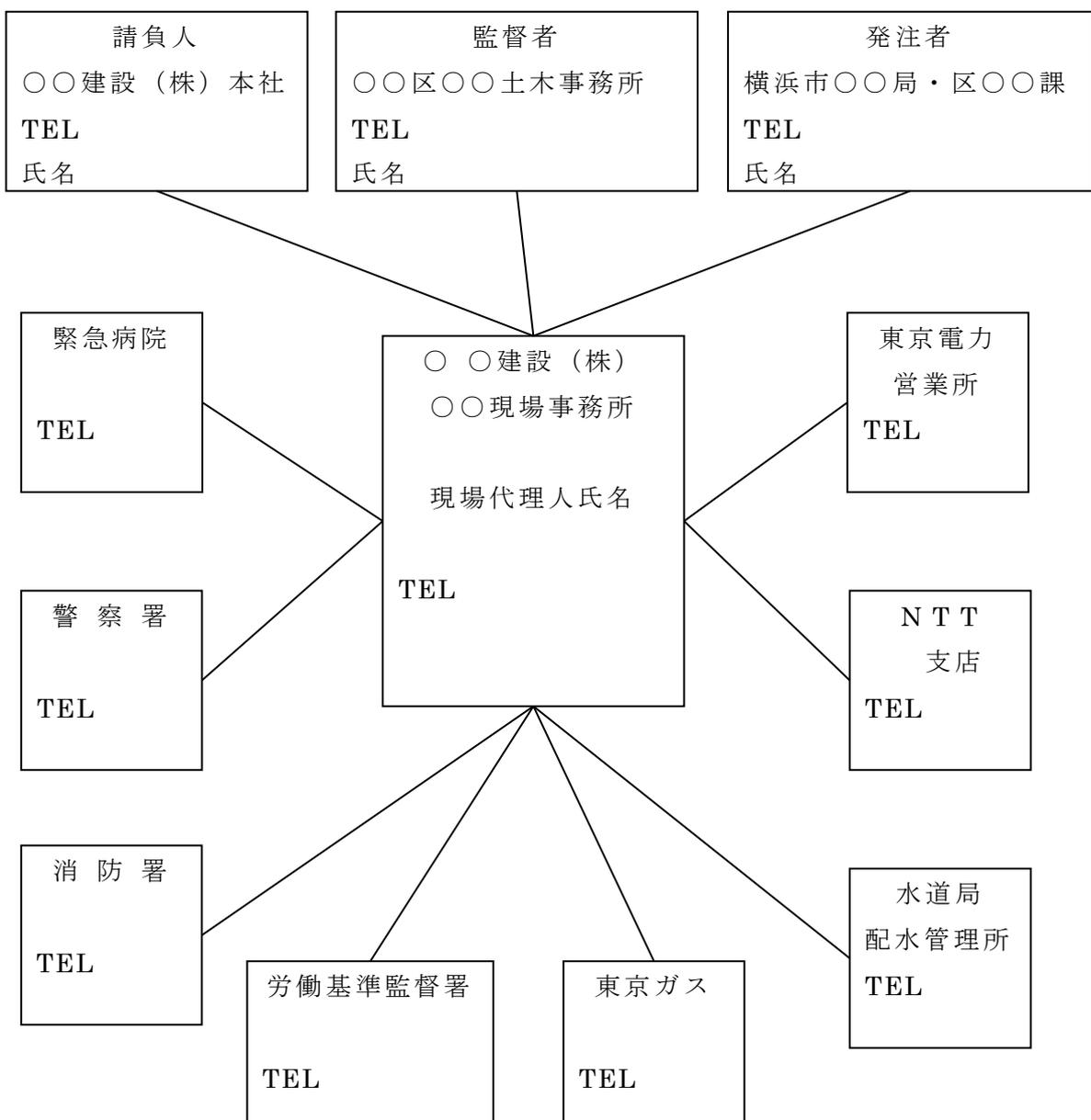
7 緊急時の体制 (例)

大雨、強風等の異常気象で、災害発生のおそれがある場合には工事を中止し、現場の整理を行い、必要に応じて現場内のパトロールを行い警戒に当たります。

また、地震、水質事故、工事事故が発生した場合は、応急措置を行うとともに関係者に連絡し適切に対応します。

なお、緊急の連絡は次の通りです。

緊急連絡系統図



8 交通管理（要点）

- (1) 工事に伴う交通処理及び交通対策については、道路工事等協議を遵守する。
- (2) 保安施設設置図を必ず添付する。
(迂回路を設ける場合には、迂回路の図面及び安全施設、案内標識の配置図面並びに交通誘導員等の配置について記載する)

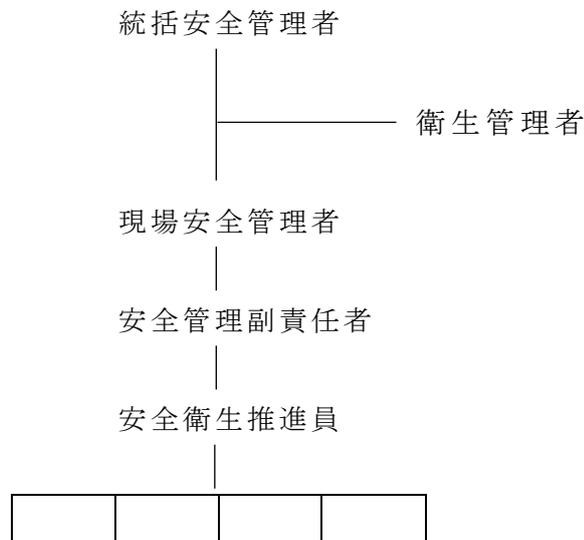
9 安全管理（要点）

安全管理に必要なそれぞれの責任や組織づくり、活動方針を記載する。

(1) 工事安全管理対策

- ア 安全管理組織（現場パトロールの体制及び保安要員）
- イ 危険物を使用する場合は、保安及び取り扱いについて
- ウ その他必要事項

(例) 工事安全管理対策



(2) 第三者施設への安全管理対策

家屋、商店、鉄道、ガス、電気、電話、水道等の第三者施設と接近して工事を行う場合の安全対策

(3) 工事安全教育及び訓練についての活動計画

安全管理活動として実施予定のものについて参加予定者、開催頻度等を記入する。

安全・訓練等の実施状況の記録及び報告

(4) 熱中症に対する義務付け等対策（労働安全衛生規則第六百十二条の二）

注）WBGT28 度以上又は気温 31 度以上の環境下で連続 1 時間以上又は 1 日 4 時間を超えて実施が見込まれる作業が対象

ア 連絡体制

熱中症の自覚症状や恐れのある作業者を発見した者が、その旨を報告する体制を記載する。

（例 1 ; 土木発注工事等）

【発見者】⇒【現場代理人】

※搬送先等は「7 緊急時の体制」の緊急連絡系統図を準用する。

注）常駐緩和等の場合は代理を指名しておくこと。

（例 2 ; 本庁発注工事等）

【発見者】⇒【職長】⇒・・・⇒【現場代理人】

※搬送先等は「7 緊急時の体制」の緊急連絡系統図を準用する。

イ 実施手順

作業離脱、身体冷却、医療機関搬送等の実施手順を記載する。

（例）



ウ アおよびイの関係作業員への周知

関係作業員への周知方法（現場で掲示、安全教育・訓練、KY 活動、新規入場教育等で周知等）及び記録（写真、議事録、チェックリスト等）について記載する。

エ 健康チェック等

作業開始前の関係作業員の健康チェック等について記載する。

オ 熱中症対策・現場環境改善計画

監督からの通知を受け、熱中症対策・現場環境改善計画を作成し、打合せ簿で提出する。施工計画書には「別途、熱中症対策・現場環境改善計画による」と記載する。

10 仮設備計画 (要点)

工事全体に共通する仮設備の配置計画等について、位置図、概略図等を用いて具体的に記載する。

工事に直接関係する仮設工、工事用道路の直接仮設備は施工方法で記載し、ここでは下記の間接的設備について記載する。

- (1) 監督員詰所、現場事務所、作業員宿舍、倉庫等の仮設建物
- (2) 材料、機械等の仮置場
- (3) 工事施工に必要なプラント等の機械設備
- (4) 運搬路（仮道路、仮橋、現道補修等）
- (5) 仮排水
- (6) 工事標示板、安全看板、立入防止柵、安全管理に関する仮設備
- (7) その他

11 環境対策 (要点)

近隣の住宅、病院、学校等の環境の保全のための対策について必要により記載する。

- (1) 発生土、廃材運搬経路図を必ず添付する。
- (2) 騒音、振動対策
- (3) 水質汚濁
- (4) ごみ、ほこりの処理
- (5) 苦情等の処理
- (6) 事業損失防止対策（家屋調査地下水の観測等）
- (7) その他

12 現場環境改善計画 (要点)

現場労働者の作業環境の改善や周辺住民の生活環境への配慮並びに一般住民への建設事業の広報活動を行うために実施するものであり、現場環境改善に関する特記仕様書に基づき、実施する項目等を記載する。

13 再生資源活用計画 (要点)

資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）に基づき、計画書及び実施書の写し等を添付する。

- (1) 再生資源利用計画書（実施書）
- (2) 再生資源利用促進計画書（実施書）
- (3) 確認結果票

14 工 程 表 （要点）

- (1) 工事内容に応じた方式（ネットワーク又は、バーチャート等）により計画工程表を作成する。
- (2) 工事進捗に伴い実施工程表を別途作成する。（計画工程表に実施工程を朱書きしてもよい。提示も可）

15 そ の 他

その他重要な事項について、必要により記載する。

3 打合せ簿について

打合せ簿は発注者および請負人が工事施工状況についてお互いに確認し合い、行き違いのないよう書類に記録しておく重要な書類である。

打合せ簿（指示）は工事の契約内容が変わる設計変更や、土木工事施工管理基準等に基づく指示をする場合等に用いられ、次のような場合には、監督員から打合せ簿（指示）を受け取り検査時に添付すること。

(1) 工事の契約内容が変わる場合

工種、形状、構造、工法、数量等の変更は、打合せ簿（指示）を必ず受け取ること。

(2) 土木工事施工管理基準に基づく場合(監督員から任意の位置を指示されたとき)

ア 道路土工の品質管理位置の打合せ簿（指示）を受け取る。

現場密度または飽和度(粘質土)の試験は、試験回数が施工量により決定されるので、試験回数を確認し打合せ簿（指示）を受け取る。

イ 舗装工の出来形管理の掘起し位置、コアの抜き取り位置の打合せ簿(指示)を受け取る。

指示事項（例）		測定項目
車道	路床改良掘り起し	厚さ測定
	上・下層路盤掘り起し	厚さ測定
	As 安定処理	コアー厚さ測定
	表層・基層	コアー厚さ測定
歩道	路盤掘り起こし	厚さ測定
	表 層	コアー厚さ測定

ウ 舗装工の品質管理位置の打合せ簿（指示）を受け取る。

指示事項（例）		試験（測定）種目	
車道	路床改良	安定処理工法	C B R 試験
		置換工法	締め固め度試験
	下層路盤	締め固め度試験	
	上層路盤	締め固め度試験	
As 安定処理		締め固め度試験（コアー）	
		抽出試験（コアー）	
表層・基層		締め固め度試験（コアー）	
		抽出試験（コアー）	

エ 舗装工のコア－抜き位置の打合せ簿（指示）の記載例

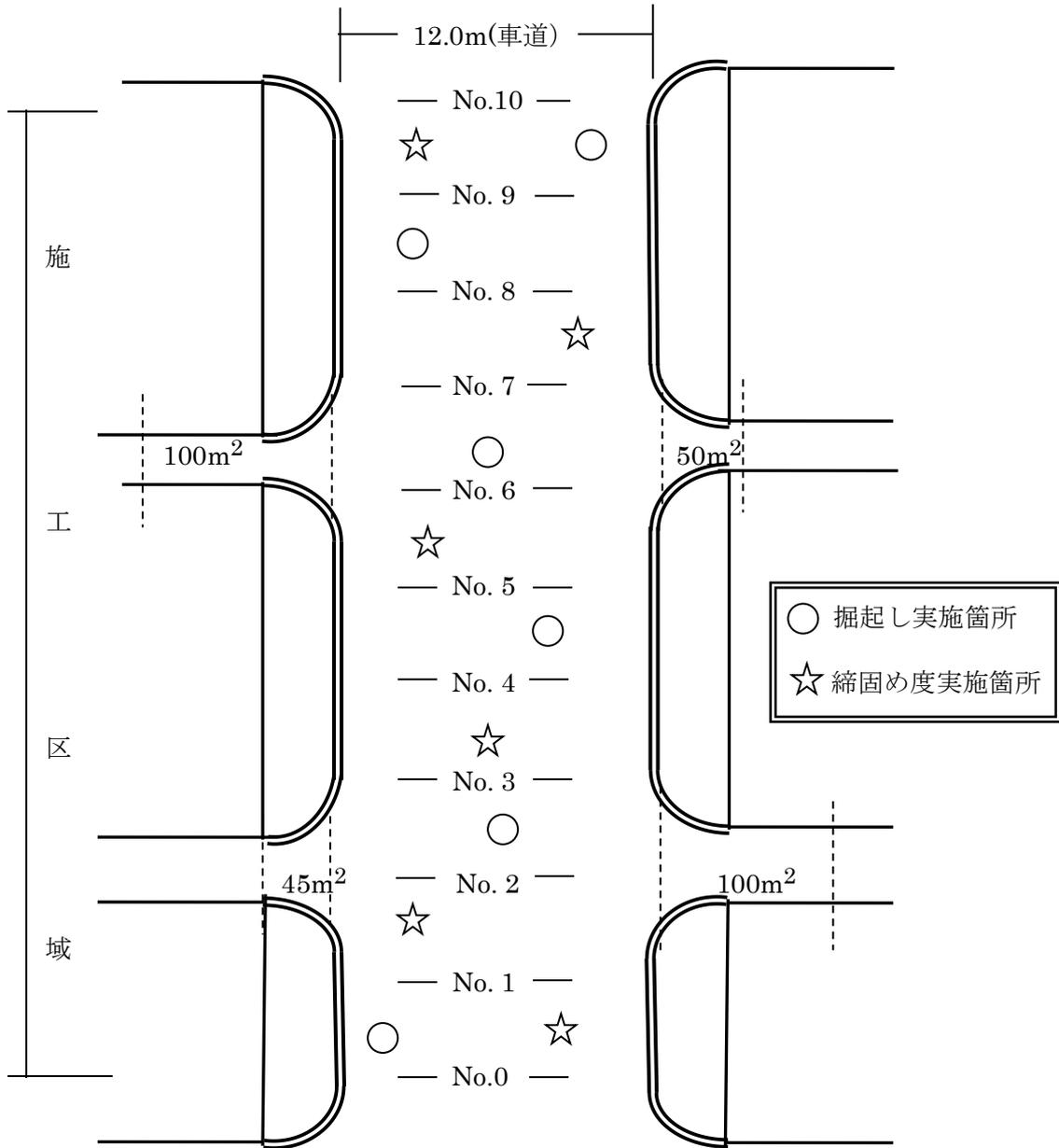
番号	指示箇所	出来形		品質	
		厚さ	検査提出	密度	抽出
1	NO. 0 + 1 1 m中央			○	○
2	NO. 3 + 1 2 m右	○		○	○
3	NO. 6 + 1 0 m左	○	○		
4	NO. 9 + 8 m中央	○		○	○

オ 工事箇所が点在していても、現場間の距離が1 km以内であれば、合計数量を管理基準の対象としてよい

- (3) 土木工事施工管理基準等に管理の方法が明記されていない場合
 特記仕様書等でも管理方法が明記されていない場合は、監督員と協議し、その管理方法について指示を受けるか、施工計画書に明記する。
- (4) 土木工事施工管理基準に基づく任意の位置の箇所例
- ア 車道路盤の掘り起こし・締め固め度試験箇所例
 - イ 車道コアの厚さ・締め固め度・抽出試験箇所例
 - ウ 歩道路盤の掘り起こし箇所例
 - エ 歩道コアの厚さ試験箇所例

ア 車道路盤の掘起し・締固め度試験箇所例

《本線 C 交通 表 5、基 5、安 10、上路 15、下路 15》
 《取付道路 L 交通 表 5、上路 10、下路 10》



掘起し実施回数 6回 (上・下層路盤同じ)

締固め度実施回数 6回 (上・下層路盤同じ)

車道面積 $12 \times 200 = 2400 \text{ m}^2 \cdots 1500 \text{ m}^2$ 以上 3000 m^2 未満なので6回実施する。

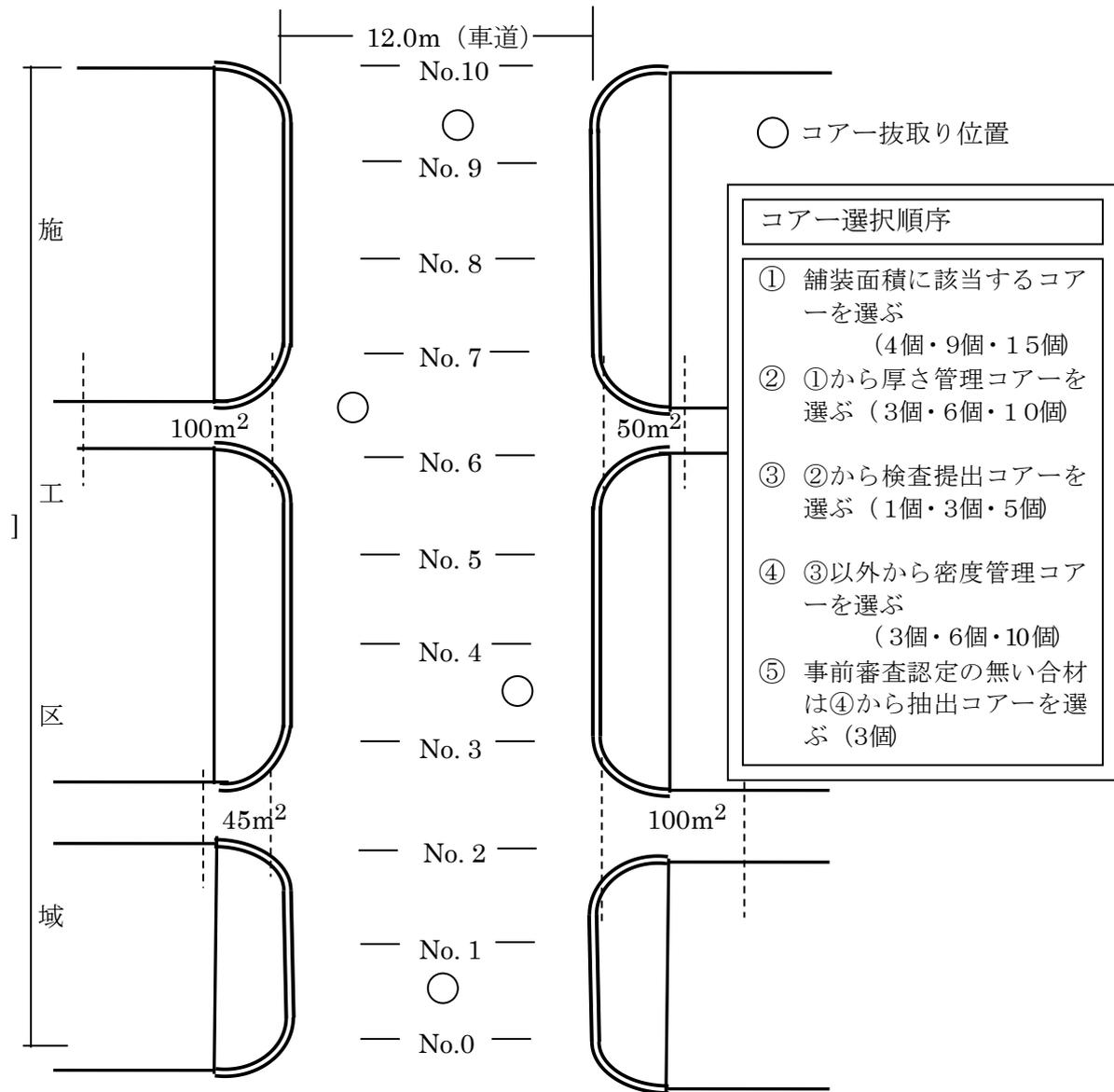
$2400 \text{ m}^2 \div 6 \text{ 回} = 400 \text{ m}^2/\text{回} \cdots$ おおよそ 400 m^2 ごとにバランスよく箇所を選定する。

取付道路面積 $45 + 100 + 100 + 50 = 295 \text{ m}^2 \cdots 300 \text{ m}^2$ 未満なので省略する。

注 舗装構成又は路盤材の種類が異なるところは、それぞれで管理する。
 ただし、それぞれの面積が 300 m^2 未満は省略することができる。

イ 車道コアの厚さ・締固め度・抽出試験箇所例

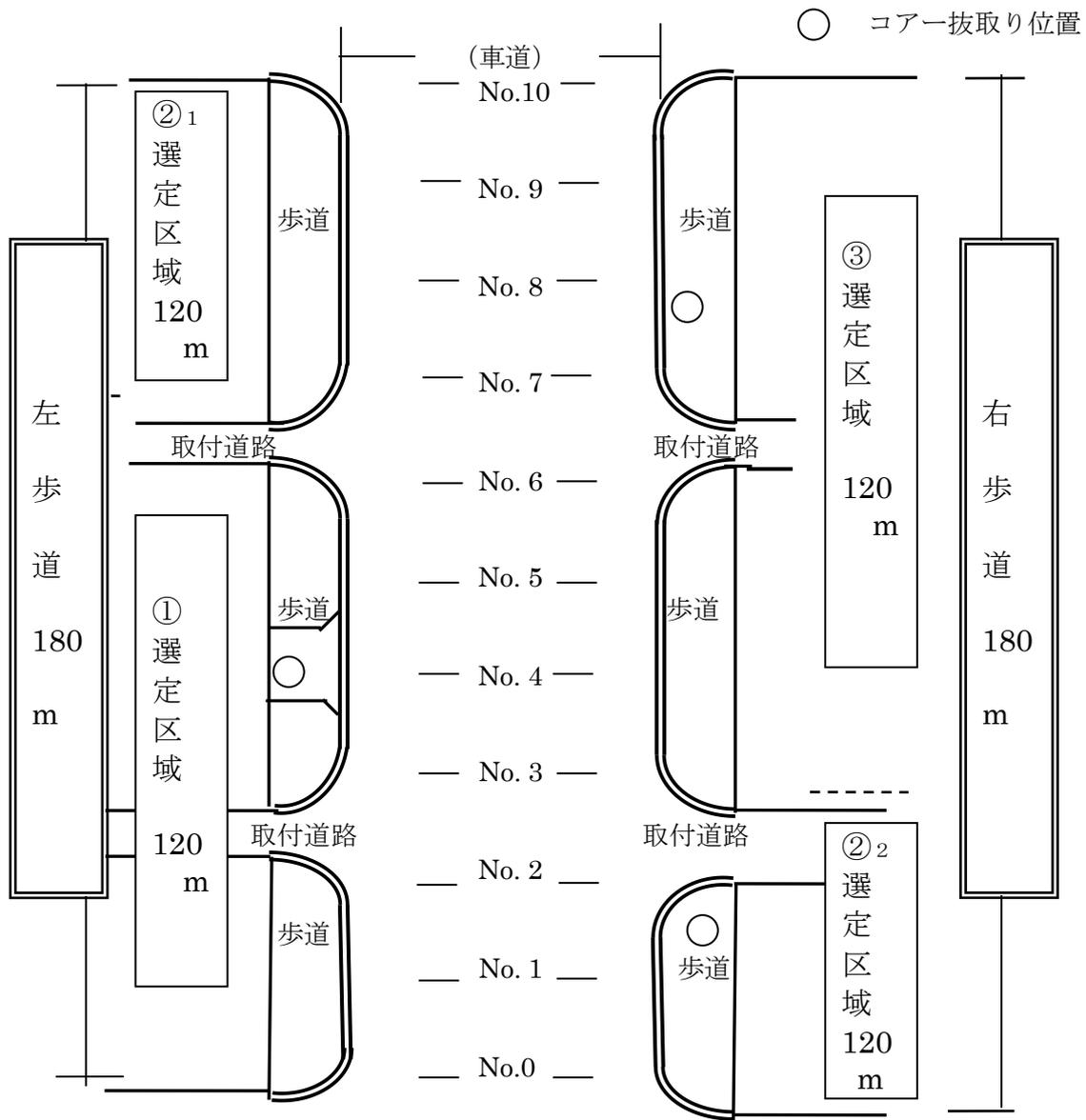
《本線 C交通 表5、基5、安10、上路15、下路15》
《取付道路 L交通 表5、上路10、下路10》



コア総数 4本、車道面積 $12 \times 200 = 2400 \text{ m}^2$
 2400 m^2 は 500 m^2 以上 3000 m^2 未満なのでコアの抜取り 3本 + 1本 = 4本 (認定書無)
 $2400 \text{ m}^2 \div 4 \text{ 本} = 600 \text{ m}^2/\text{本}$ ・・・おおよそ 600 m^2 ごとにバランスよく箇所を選定する。
 取付道路面積 $45 + 100 + 100 + 50 = 295 \text{ m}^2$ ・・・ 500 m^2 未満なので省略する。
 厚さの管理は 2400 m^2 なので3本で実施する。
 締固め度の管理は 2400 m^2 なので3本で実施する。
 As量、密度の抽出は面積に関係なく3本で実施する。(認定書のない合材のみ)
 検査提出コアは 2400 m^2 なので1本、厚さ管理したものを提出する。

注 舗装構成の異なるところは、それぞれで管理する。
 ただし、それぞれの面積が 500 m^2 未満は省略することができる。

ウ 歩道路盤の掘起し箇所例



掘起し実施回数 3回

取付道路を除いた総延長は 360m(左右の歩道を一本の直線と考える)

$360\text{m} \div 120\text{m} = 3.0$ (端数が生じた場合は切り上げ) … 3回実施する。

$360\text{m} \div 3\text{回} = 120\text{m/回}$ … おおよそ 120m ごとにバランスよく箇所を選定する。

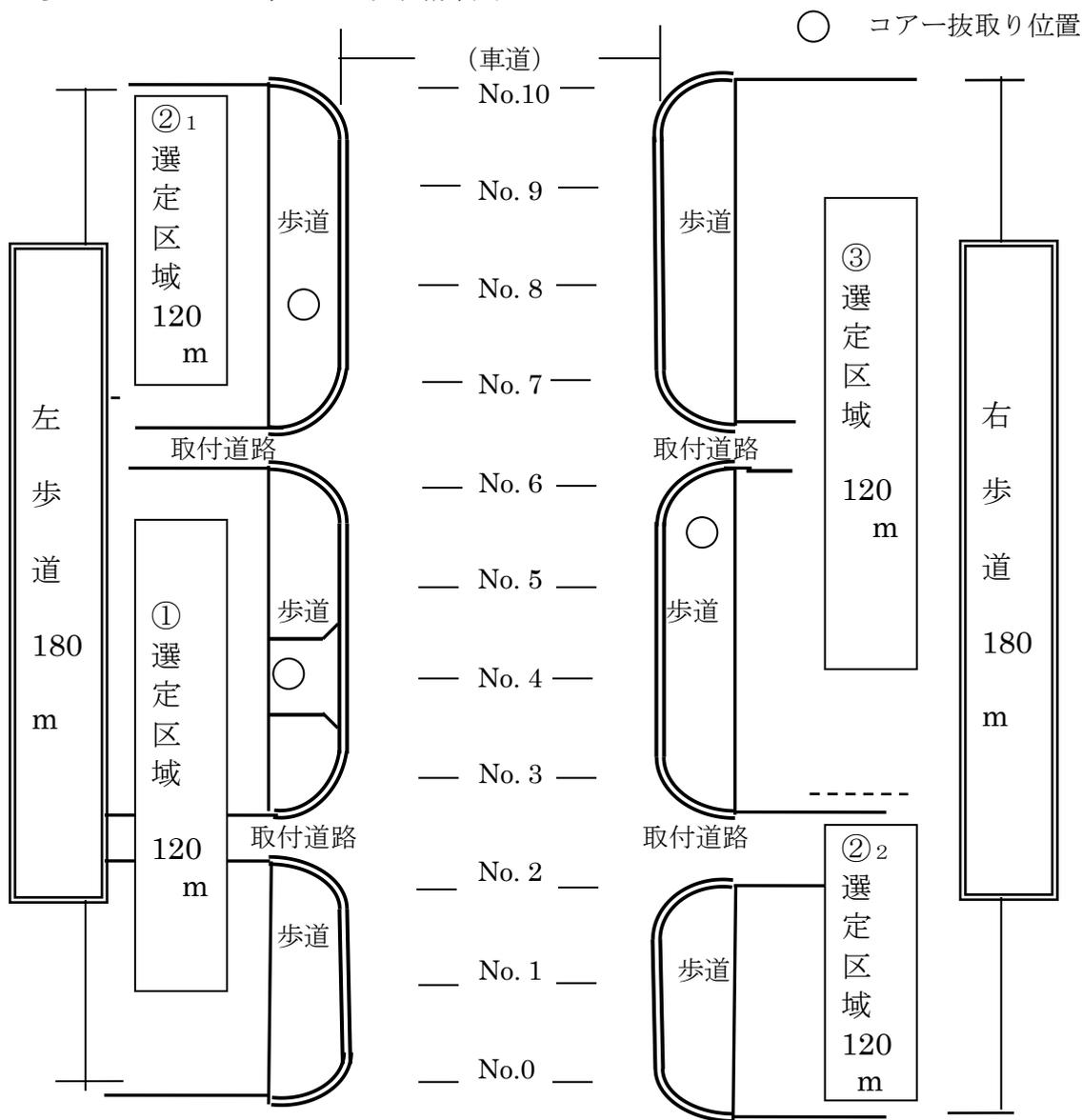
※ 左右の歩道幅員が違っていても、延長を合計し 120m ごとに選定する。

実施回数が 1 回の場合は規格値の範囲以内、2 回以上の場合はその平均値が設計値以上 (平均値は 120m ごとのため X_3 , X_6 , X_{10} とは限らない)

注 舗装構成にかかわらず、120m ごとに行う。

ただし、総延長が 60m 未満は省略することができる。

エ 歩道コアの厚さ試験箇所例



コア総数 3本

取付道路を除いた総延長は360m(左右の歩道を一本の直線と考える)

$360\text{m} \div 120\text{m} = 3.0$ (端数が生じた場合は切り上げる)

$360\text{m} \div 3\text{本} = 120\text{m/回}$ … おおよそ120mごとにバランスよく箇所を選定する。

※ 切下げ部があっても、延長を合計し120mごとに選定する。

抜き本数が1本の場合は規格値の範囲以内，2本以上の場合はその平均値が設計値以上(平均値は120mごとのためX3, X6, X10とは限らない)

注 舗装構成にかかわらず，120mごとに行う。

ただし、総延長が60m未満は省略することができる。

4 材料関係（材料確認書ほか）

工事に使用する材料には、材料確認書の対象、打合せ簿の対象、それ以外の材料がある。

(1) 「材料確認書」の対象

工事に使用する材料のうち、設計図書（共通仕様書、特記仕様書）で「確認を受ける」と指定された材料については、材料確認書を提出して監督員が臨場して確認する。

なお、材料確認書の詳細については、工事書類作成の手引き（土木工事編）「6 材料確認書」によるものとする。

材料確認書（例）

材 料 確 認 書					
令和 年 月 日					
(工事監督課・事務所)					
○ ○ 土木事務所					
請負人（社名） ○ ○ 建設株式会社					
現場代理人氏名 ○ ○ ○ ○					
工事名 ○ ○ 工事					
標記工事に使用する下記の材料について確認をお願いします。					
材料名	品質規格	確 認 欄			備 考
		確認年月日	確認方法	確認	

材料確認書の手順

- ① 材料確認書の材料名および品質規格を記入し、一部の材料かサンプルと品質証明資料とともに監督員に提出する
- ② 提出された資料をもとに監督員が臨場確認し、要求された品質および規格に適しているか確かめ、材料確認書の確認欄に監督員が記入する

(2)「打合せ簿」の対象

工事に使用する材料のうち、設計図書（共通仕様書、特記仕様書）において、監督員の「承諾」または「提出」が記載された材料については、監督員に「打合せ簿（承諾）または（提出）」を提出する。

対象としては、レディーミクストコンクリートの示方配合表やアスファルト混合物の配合設計・認定書などが該当する。

複数の材料や品質・規格がある場合は、次のような一覧表を打合せ簿の次ページに添付し、品質を判定できる資料と共に監督員へ提出する。

一覧表（例）

材 料 名	規 格	生 産 社 名 (会社名及び工場又は産地)	承諾方法
生コンクリート (高炉)	18-8 W/C 比 60%以下	〇〇コンクリート(株) 〇〇工場	配合報告書
生コンクリート (高炉)	24-8 W/C 比 55%以下	〇〇コンクリート(株) 〇〇工場	配合報告書
アスファルト合材	再生密粒度(13)	〇〇道路(株) 〇〇工場	認 定 書
再生アスファルト合材	再生粗粒度(20)	〇〇道路(株) 〇〇工場	認 定 書

(3)それ以外の材料

設計図書で「確認を受ける」と指定されている材料、打合せ簿で提出することになっている材料以外の材料についても、使用に先立ち品名、製造会社、規格証明書、品質試験成績表、その他品質を判定できる資料を監督員へ提出し、承諾を求めることができる。

複数の材料や品質・規格がある場合は、(2)の一覧表を打合せ簿の次ページに添付し、品質を判定できる資料と共に監督員へ提出する。

5 使用材料総括表（例）

工事名	〇 〇 〇 工事			
請負人	〇 〇 〇 建設㈱		現場代理人	〇 〇 〇 〇
材料名	規格	単位	使用数量	備考
生コンクリート（高炉）	21-8 W/C 60%以下	m ³	32.5	設計; 18-8 W/C 60%以下
生コンクリート（高炉）	24-8 W/C 55%以下	m ³	155.0	
粒度調整砕石	RM-40	m ³	62.4	
アスファルト合材	再生密粒度(13)	t	51.1	
再生アスファルト合材	再生粗粒度(20)	t	53.5	
歩車道境界ブロック	150/170×200×600	本	90	JIS〇〇
コンクリート積ブロック	35-A種	個	390	JIS〇〇
切込砕石	RC-40(基礎用)	m ³	17.0	
切込砕石	RC-40(路盤用)	m ³	92.1	

- (1) 使用数量は、材料ごとの合計を記入する。また、補助工事では使用材料集計表と整合させること。
- (2) 数量は小数点以下1位（2位を四捨五入）まで記入する。
- (3) 材料の規格は現場で実際に使用した規格を記入するものとし、設計上の規格と異なる場合は備考欄に設計上の規格を記載する。

6 工事数量計算書について

- (1) 請負人が作成する。
- (2) 設計計算書と同一でも良いが、請負人の名前で必ず添付する。
- (3) 工事出来形図の実測値と照合し整合性を図ること。
※ 都市計画道路等の車道幅員、車道延長について理論値を採用しているものは、求積も理論値により算出する。
- (4) 数量の算出根拠は、設計業務数量算出基準による。
- (5) 交通誘導警備員については伝票をもとに集計表を作成する。【伝票は提示も可】

交通誘導警備員集計表（例）

月日	工種	規制方法	昼間 A	夜間 A	昼間 B	夜間 B	備考
10/11	人孔調整工	片側交互	1		1		規制図 1
10/12	休工						
10/13	切削オーバーレイ	片側交互		1		8	規制図 2
10/14	休工						
10/15	区画線工	片側交互	1		1		規制図 1
合計			2	1	2	8	

※規制図は施工計画書や道路工事等協議添付図面で良い。

7 出来形管理関係

- (1) 出来形管理表
 - ア 車道舗装工 (例)
 - イ L形側溝工 (例)
- (2) 検査合格判定表 (出来形)
 - ア 路床改良掘起し検査合格判定表 (出来形) (例)
 - イ 路盤掘起し検査合格判定表 (出来形) (例)
 - ウ 抜取りコアー検査合格判定表 (出来形) (例)

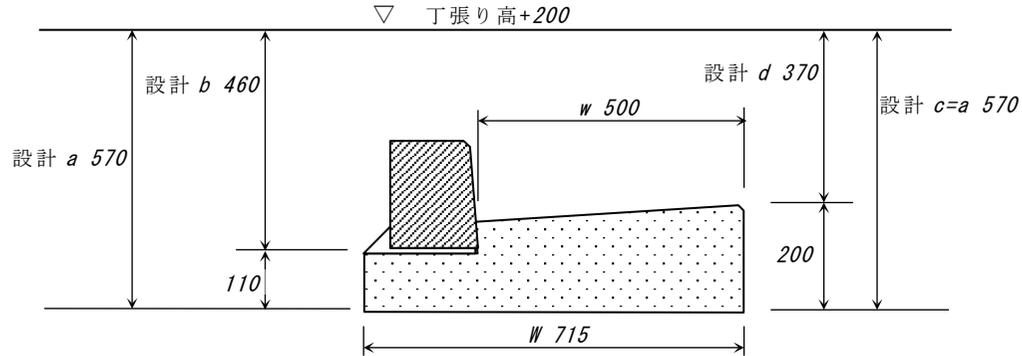
注：測定者名・立会者名は、必ず記入する。
- (3) 路面の平坦性試験について
- (4) ICT 施工の出来形管理図表 (例)

7 (1) -イ (例)

出来形管理表

工事名 _____

工種名 L形側溝工 (タイプ1) _____



測定位置	a	b	c	d		a-b		c-d			w		W				
規格値	—	—	—	—		-20		-20			-20		-20				
測点	実測	実測	実測	実測	実測	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差
No. 1(左)	575	460	575	370		115	5	205	5			505	5	725	10		
No. 3(左)	570	460	570	370		110	0	200	0			500	0	720	5		
No. 5(左)	575	465	575	370		110	0	205	5			510	10	730	15		
No. 7(左)	575	460	575	365		115	5	210	10			500	0	715	0		
No. 9(左)	575	455	575	365		120	10	200	0			505	5	725	10		

7 (2)-ア (例)

路床改良掘起し検査合格判定表(出来形)

工事名	
工種名	安定処理
設計厚	80cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -45mm以内, $X_{10}=-15$ mm以内, $X_6=-14$ mm以内, $X_3=-8$ mm以内

測点	NO3(R)	NO5(L)	NO7(C)								X_3
実測	820	840	780								813
差	+20	+40	-20								+13

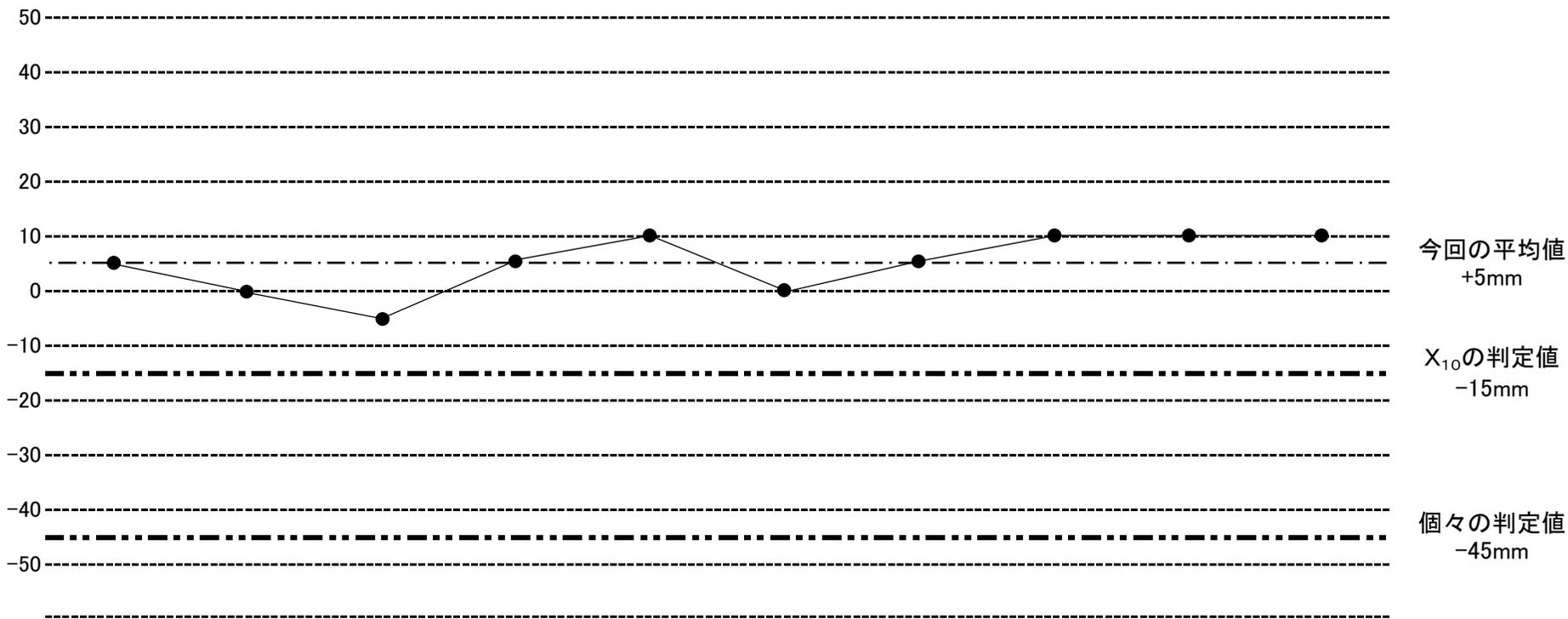


7 (2) - イ (例)

路盤掘起し検査合格判定表(出来形)

工 事 名	
工 種 名	下層路盤工(再C-40)
設 計 厚	25cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -45mm以内, $X_{10} = -15\text{mm}$ 以内, $X_6 =$, $X_3 =$

測 点	NO1+13(C)	NO2+5(R)	NO4+14(L)	NO5+8(L)	NO7+11(R)	NO9+14(C)	NO10+9(L)	NO11+13(R)	NO13+12(C)	NO14+15(L)	X_{10}
実 測	255	250	245	255	260	250	255	260	260	260	255
差	+5	±0	-5	+5	+10	±0	+5	+10	+10	+10	5

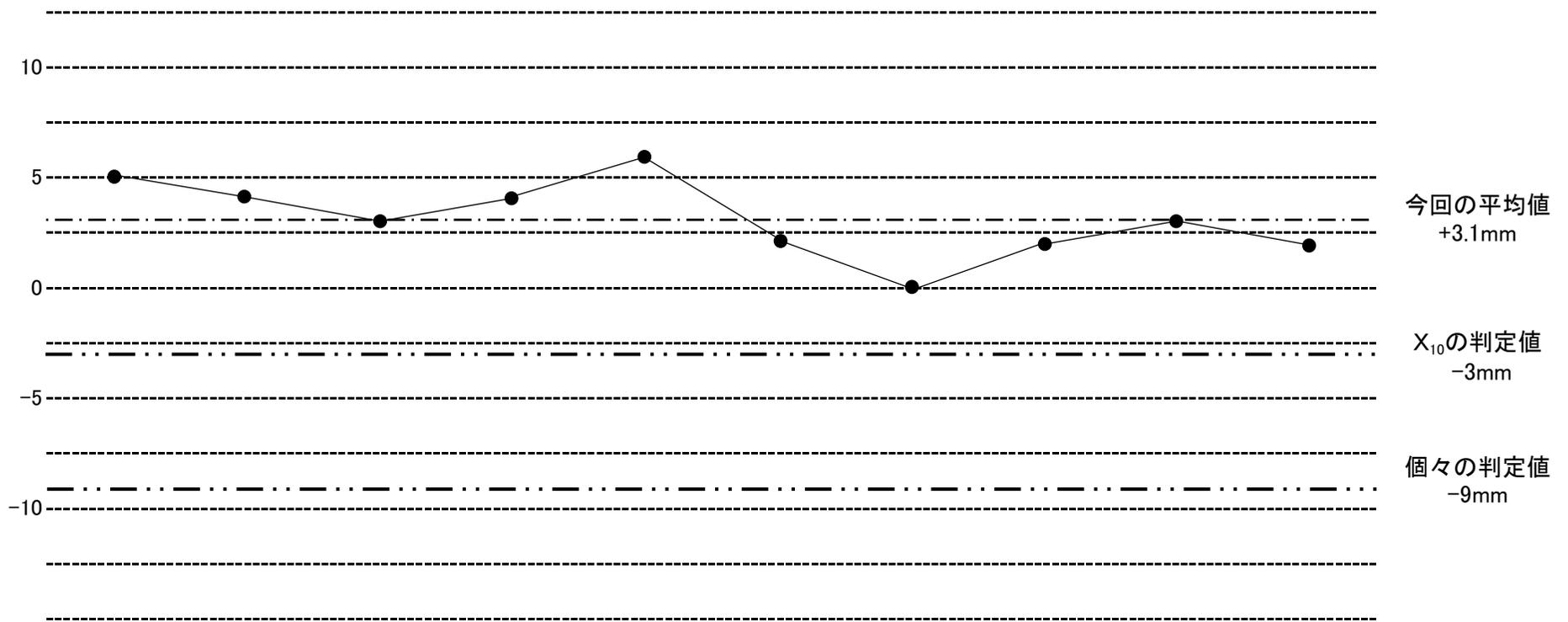


7 (2)-ウ (例)

抜き取りコア一検査合格判定表(出来形)

工事名	
工種名	基層工(粗粒度アスコン)
設計厚	5.0cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -9mm以内, X_{10} = -3mm以内, X_6 = mm以内, X_3 = mm以内

測点	NO0+7(L)	NO1+15(R)	NO3+8(C)	NO5+11(R)	NO7+4(L)	NO9+5(C)	NO11+3(R)	NO12+18(L)	NO13+17(C)	NO14+15(R)	X_{10}
実測	55	54	53	54	56	52	50	52	53	52	53.1
差	+5	+4	+3	+4	+6	+2	±0	+2	+3	+2	+3.1



7 (3) 舗装工 平坦性試験について

一般的には「3 mプロフィルメーターによる方法」による。

アスファルト混合物やセメントコンクリートで舗装した車道舗装の平坦性の測定のために現場で実施する。

バス路線等の幹線道路で施工延長200 m以上について実施する。

ア 始点及び終点の位置を確認するとともに、橋梁取付部、マンホールなど平坦性測定障害となる構造物の位置を確認する。

イ 測定位置は、出来形管理や検査を目的とする場合には、車線毎に車線の中心から1 m離れた地点を結ぶ、中心線に平行する2本の線のいずれかの一方上に延長1.5 m間隔で設置された任意の地点とする。(障害物付近のデータは、除去する)

ウ 測定開始点と測定終了点の間を、通常の歩行速度で3 mプロフィルメーターを牽引し、路面の凹凸を記録する。

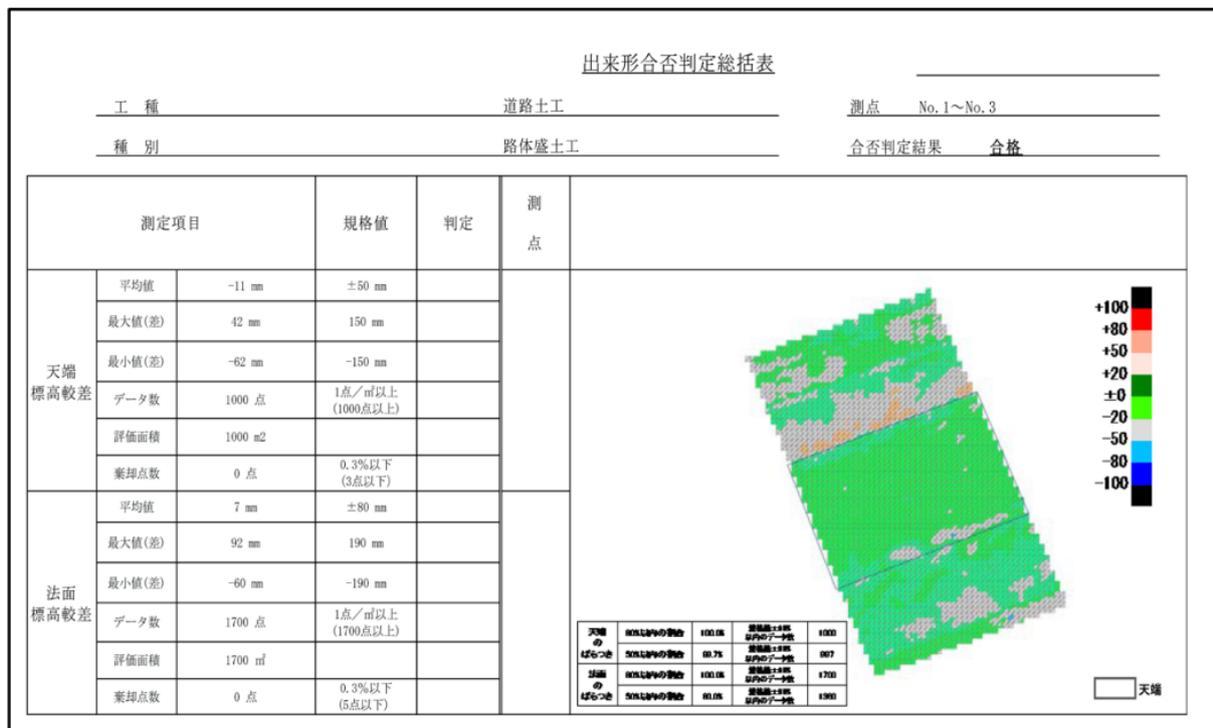
※ 3 mプロフィルメーターによる方法

舗装調査・試験法便覧〔第1分冊〕

第II章 調査編 2. 路面の定量調査

S028 舗装路面の平坦性測定方法……………[1]－147

7 (4) ICT 施工の出来形管理図表 (例)



8 品質管理関係

- (1) アスファルト混合物温度管理表 (例)
- (2) レディーミクストコンクリートの品質管理表 (例)
- (3) 検査合格判定表 (品質)
 - ア 路床改良検査合格判定表 (品質) 置換工法 (例)
 - イ 路床改良検査合格判定表 (品質) 安定処理工法 (例)
 - ウ 路盤締固め度検査合格判定表 (品質) (例)
 - エ 合材締固め度検査合格判定表 (品質) (例)
 - オ 合材抽出アスファルト量粒度検査合格判定表 (品質) (例)

8 (1) (例)

アスファルト混合物温度管理表

工事名

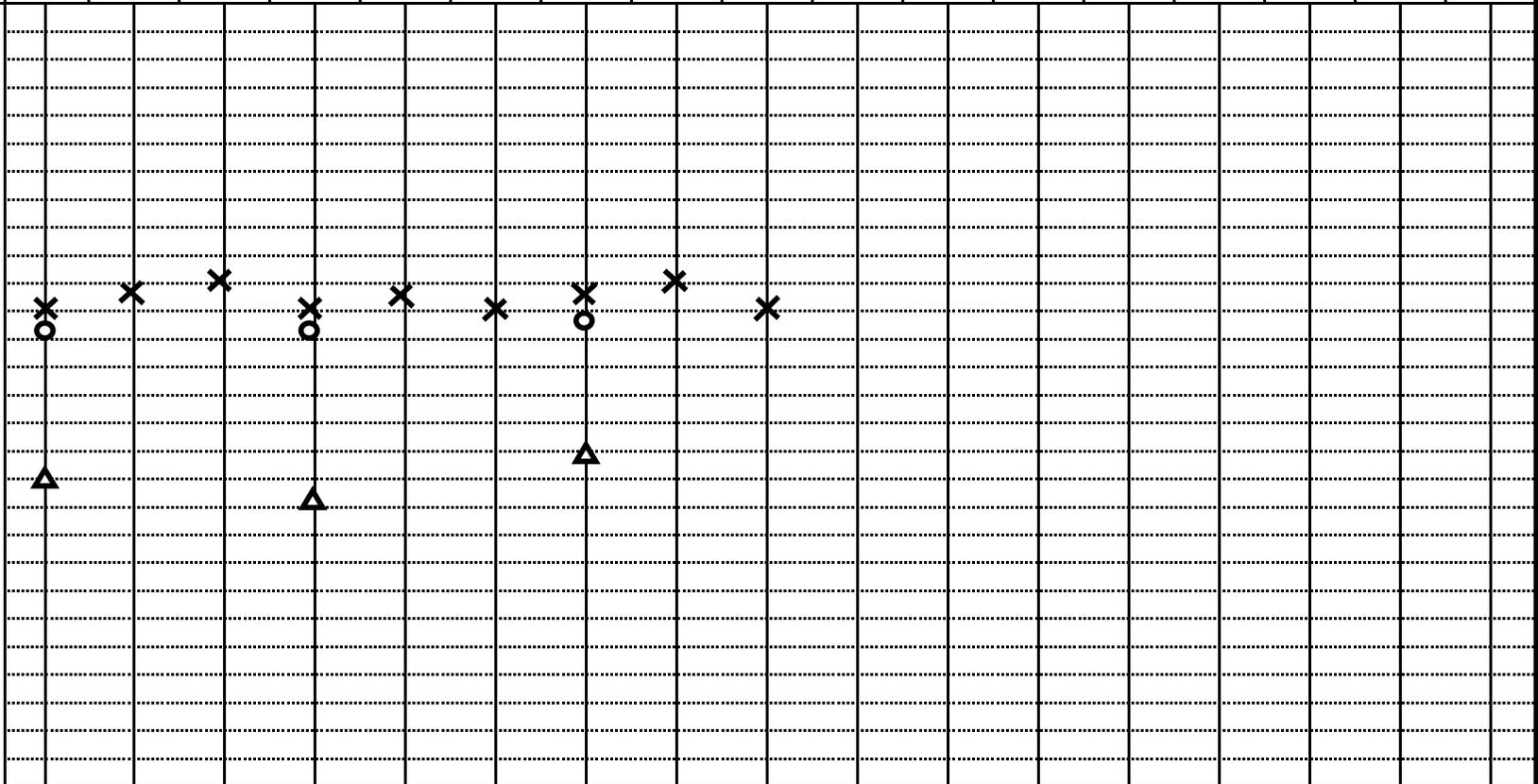
混合物の種類 密粒度 13mm

最適締固め温度； 配合設定温度 142℃～147℃

月	日	8/29																	
台	数	1	2	3	4	5	6	7	8	9									
出	荷	温	度	160	161	162	160	161	160	161	162	160							
到	着	温	度	158			157			159									
転	圧	温	度	145			143			147									

温度 (°C)

180
170
160
150
140
130
120



8 (2) (例)

レディーミクストコンクリートの品質管理表

工事名

【配合設計】

呼び名 : 高炉 24-8-20-BB

水セメント比 55.0%, 細骨材比46.0%, 塩化物含有量0.3kg/m³以下

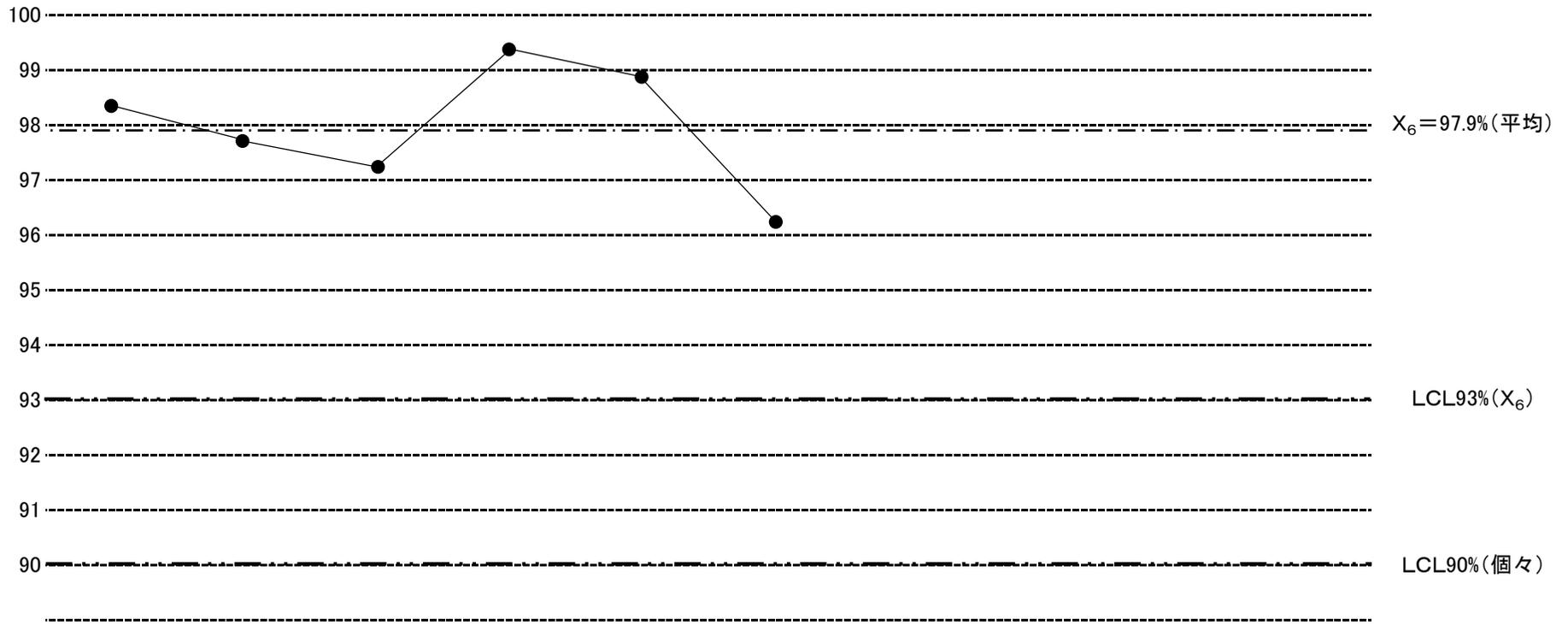
打設日	1月8日	1月11日				備考
スランプ	8.0	8.2				
空気量	4.5	5.0				
塩化物含有量	0.03	0.03				
σ7 圧縮強度	18.0	19.0				
σ28 圧縮強度	26.0	27.0				
スランプ [cm] (例)	8.0	8.2				8cm±2.5cm
空気量 [%] (例)	4.5	5.0				4.5%±1.5%
塩化物含有量 [kg・m ³] (例)	0.03	0.03				
σ7 圧縮強度 [N/mm ²] (例)	18.0	19.0				
σ28 圧縮強度 [N/mm ²] (例)	26.0	27.0				

8 (3)-ア (例)

路床改良検査合格判定表(品質)

工事名	
工種名	再C-40置換工法(砂置換法)
基準密度	配合報告書の最大乾燥密度 1.944
合格判定値	個々;基準密度の90%以上, $X_{10}=92.5\%$ 以上, $X_6=93.0\%$ 以上, $X_3=93.5\%$ 以上

測点	NO1+5(R)	NO2+15(L)	NO4+10(C)	NO6+5(R)	NO7+15(L)	NO9+10(C)					X_6
計測値	1.910	1.900	1.890	1.930	1.920	1.870					1.903
百分率	98.3	97.7	97.2	99.3	98.8	96.2					97.9

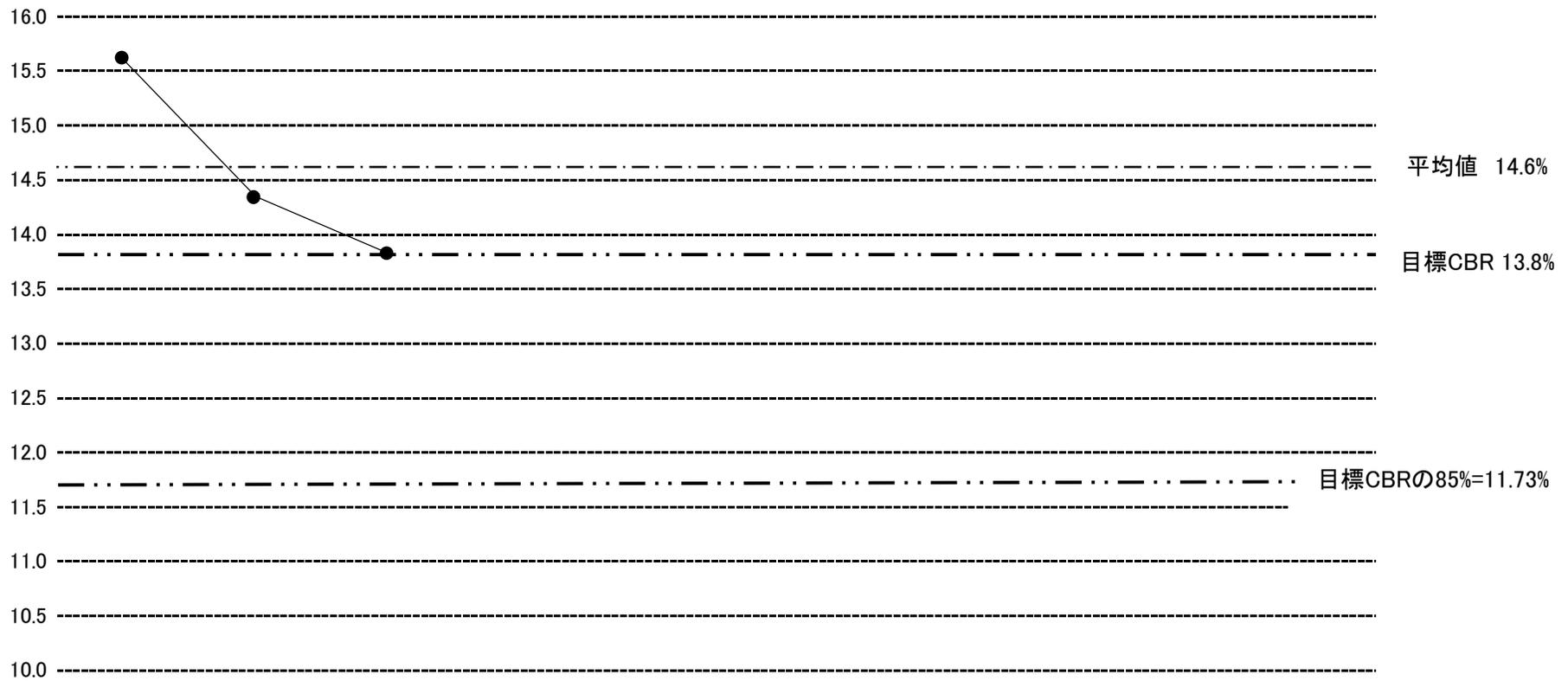


8 (3)-イ (例)

路床改良検査合格判定表(品質)

工 事 名	
工 種 名	安定処理工法(CBR試験)設計CBR 8%, 改良厚 80cm
目 標 CBR 値	13.80%
合 格 判 定 値	個々;目標CBRの85%以上, X ₃ , X ₆ , X ₁₀ ;目標CBR値以上

測 点	NO3(R)	NO5(L)	NO7(C)								X ₃
計測値	15.6	14.3	13.8								14.6

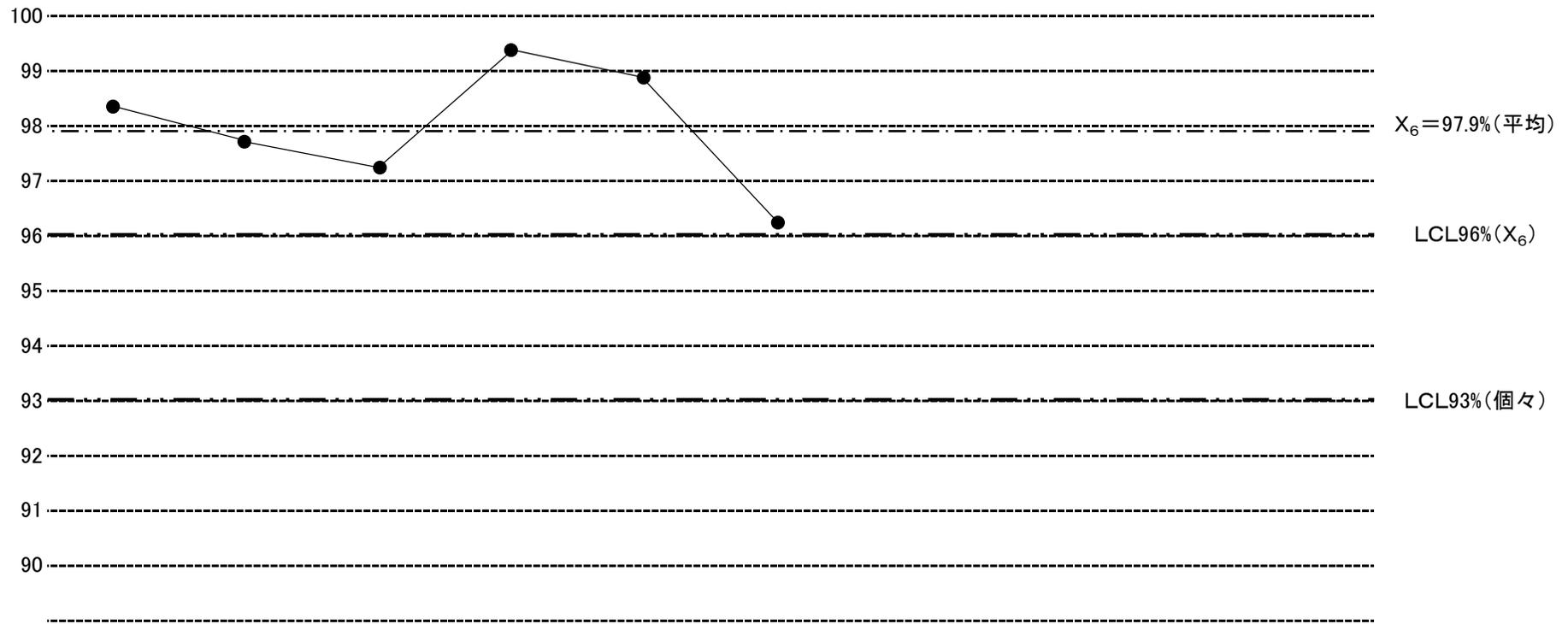


8 (3)-ウ (例)

路盤締固め度検査合格判定表(品質)

工 事 名	
工 種 名	下層路盤工(C-40) t=30cm
基準密度	配合報告書の最大乾燥密度 1.944
合格判定値	個々; 基準密度の93%以上, $X_{10} =$ %以上, $X_6 = 96\%$ 以上, $X_3 =$ %以上

測 点	NO1+5(R)	NO2+15(L)	NO4+10(C)	NO6+5(R)	NO7+15(L)	NO9+10(C)					X_6
計測値	1.910	1.900	1.890	1.930	1.920	1.870					1.903
百分率	98.3	97.7	97.2	99.3	98.8	96.2					97.9

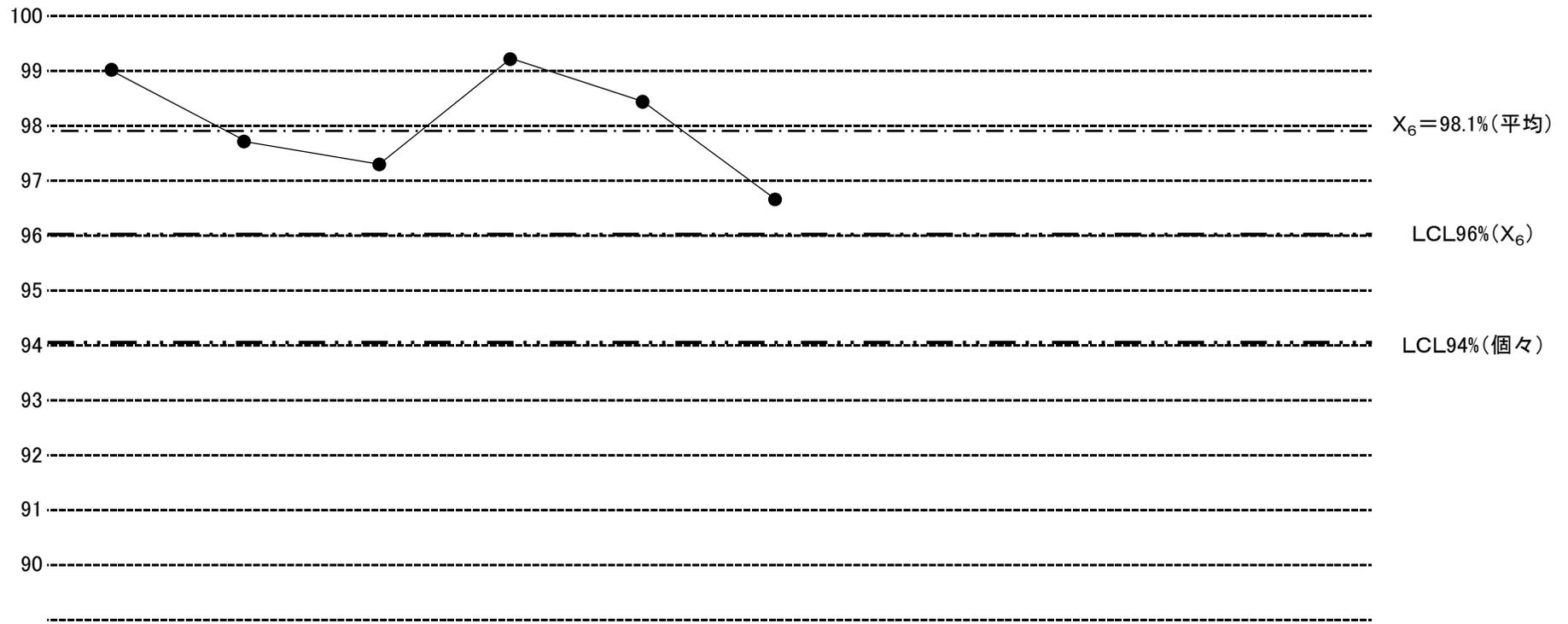


8 (3)-工 (例)

合材締固め度検査合格判定表(品質)

工事名	
工種名	基層工(20mm) t=5cm
基準密度	2.368
合格判定値	個々;94%以上, X_{10} = %以上, X_6 =96%以上, X_3 = %以上

測点	NO1+5(R)	NO3+15(L)	NO6+10(C)	NO9+5(R)	NO11+15(L)	NO14+10(C)					X_6
計測値	2.345	2.312	2.305	2.350	2.330	2.290					2.322
百分率	99.0	97.6	97.3	99.2	98.4	96.7					98.1



8 (3) - オ (例)

表層工(密粒度)抽出アスファルト量粒度検査合格判定表(品質)					基準アスファルト量	5.3 %
工事名					配合設計 2.36m/mpass	40.6 %
					配合設計 0.075m/mpass	5.5 %
測点	NO1+15(R)	NO7+5(C)	NO11+12(L)	X ₃	合格判定値(X ₃)	
アスファルト量	5.32	5.41	5.27	5.33	表層・基層±0.5%以内 , As安定処理 -0.7%以上	
2.36m/m pass	41.1	38.2	40.6	39.97	表層・基層±7.0%以内 , As安定処理 ±8.5%以内	
0.075m/m pass	5.9	5.3	6.5	5.9	表層・基層±3.0%以内 , As安定処理 ±3.5%以内	

The figure consists of three vertically stacked line graphs, each representing a different asphalt content or pass percentage metric. Each graph plots data for three locations: NO1+15(R), NO7+5(C), and NO11+12(L). The graphs include control lines for UCL (Upper Control Limit), X₃ (mean), and LCL (Lower Control Limit).

- Top Graph: アスファルト量 (Asphalt Content)**
 - Y-axis: 5.32, 5.41, 5.27
 - UCL = 5.8%
 - X₃ = 5.33%
 - LCL = 4.8%
- Middle Graph: 2.36m/m pass**
 - Y-axis: 41.1, 38.2, 40.6
 - UCL = 47.6%
 - X₃ = 39.97%
 - LCL = 33.6%
- Bottom Graph: 0.075m/m pass**
 - Y-axis: 5.9, 5.3, 6.5
 - UCL = 8.5%
 - X₃ = 5.9%
 - LCL = 2.5%

9 発生土・廃材関係書類について

(1) 指定処分

ア 建設発生土

(ア) 副申書

(イ) 料金納入通知書・還付金領収書

(ウ) 集計表(設計数量と搬入整理券の合計数量が確認できること。

また、合併、継続工事等は全体の数量が確認できること。)

(エ) 搬入整理券(半券)【提示も可】

(オ) 土砂検定試験表(1000m³以上)

※ 運搬経路図は施工計画書に添付すること。

イ 建設廃材(A s 殻、C o 殻、現場発生路盤材)

(ア) 廃材搬入利用申込み書

(イ) 集計表(設計数量と搬入数量が確認できること。

また、合併、継続工事等は全体の数量が確認できること。)

(ウ) 廃材検収伝票【提示も可】

※ 運搬経路図は施工計画書に添付すること。

(2) 確認処分

ア 建設発生土・産業廃棄物(泥水、その他)

(ア) 確認処分届

(イ) 集計表(設計数量と搬入数量が確認できること。

また、合併、継続工事等は全体の数量が確認できること。)

(ウ) 搬入証明書(受入先が発行した搬入整理券等)【提示も可】

※ 運搬経路図は施工計画書に添付する。

泥 水・・・含水率が高く粒子が微細で泥状のもの。

廃ベントナイト泥水・泥状土・リバーサーキュレーション泥水等

10 工事履行報告書（例）

工事履行報告書

工事名	○ ○ ○ ○ 工事		
工期	○年 9月 ×日 ~ △年 6月 ×日		
日付	△年 3月 ×日 (3月分)		
月 別	予定工程 % () は工程変更後	実施工程 %	備 考
○年 9月	5	5	
10月	10	8	
11月	20	15	
12月	35	30	
△年 1月	55	55	
2月	70 (65)	60	2月○日変更契約
3月	80 (70)	70	
4月	90 (85)		
5月	100 (95)		
6月	(100)		

(記事欄)

当該月の実施工程に関する事項について記載

主任 監督員	監督員

現場 代理人	主任 (監 理) 技術者

- ※ 実施工程%の根拠資料の添付は不要。
- ※ 変更契約後の予定工程 (%) は、() 書きで記載し、変更契約の都度、追記する。
- ※ 備考欄に変更契約日を記載する。

1.1 使用材料集計表について

(例)

材 料 名	規 格			単 位	使 用 数 量	備 考	
アスファルト合材	密 粒 度(13)			t	1,356.5		
工 事 名	〇 〇 〇 工事						
請 負 人	〇 〇 〇 建設株			現場代理人 〇 〇 〇 〇			
納入年月日	納 入 量	累 計 数 量	備 考	納入年月日	納 入 量	累 計 数 量	備 考

- (1) 本表は、補助工事のみが対象である。
- (2) 材料の試験成績表等がロット番号等に紐づけられている場合は備考欄に記入する。

1 2 検査に必要な図面について

- (1) 平面図 (工種を色分けしたもの)
- (2) 縦断図
- (3) 横断図
- (4) 構造図
- (5) 求積図
- (6) 仮設図
- (7) 配筋図
- (8) 展開図 (石積, 擁壁)

※ 検査に必要な図面は, 設計図書にある図面
を利用し(社印)は不要である。

- ※ 理論値のあるもの
- (9) 出来形図 (1, 2, 4, 8等の図面の設計値に朱書きしたもの)

- ※ 理論値のないもの
- (10) 出来高図 (1, 5, 8等の図面と同じ)

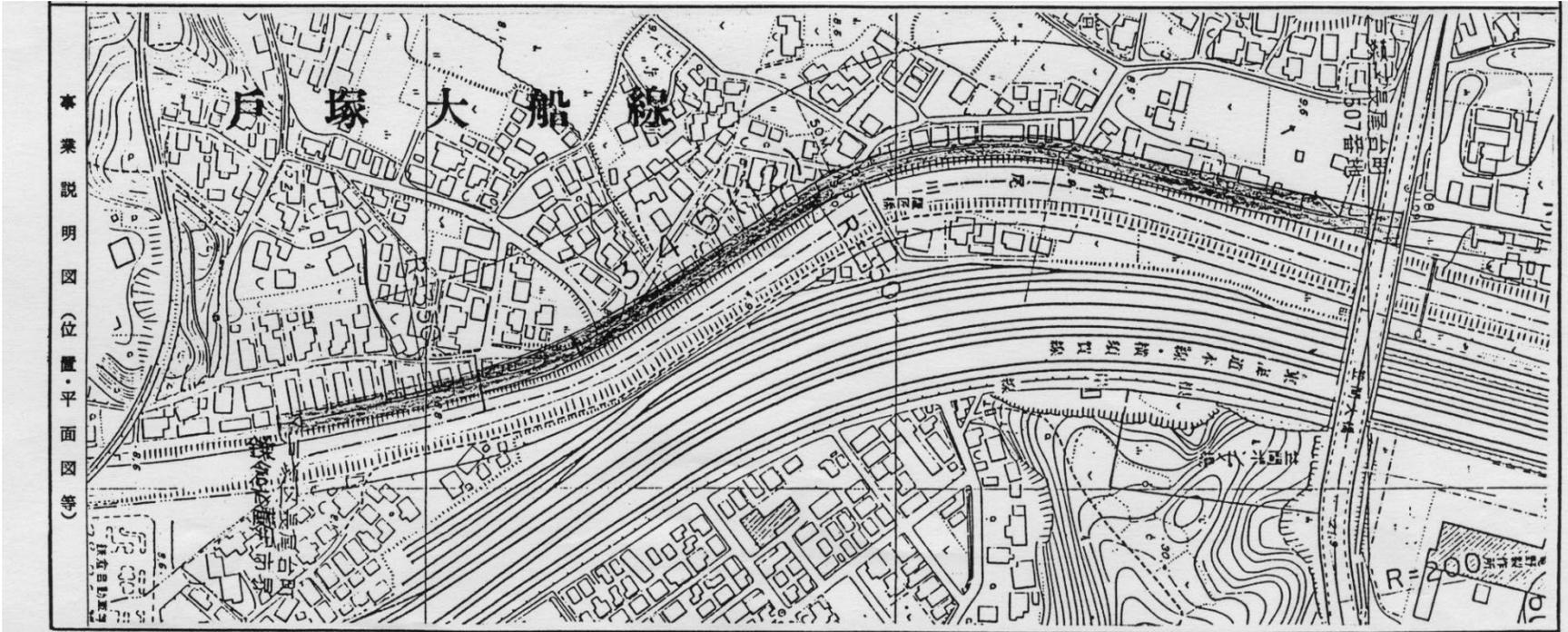
- (11) 管理位置図 (出来形管理, 品質管理基準による)
- (12) 施工順序図 (けた架設図, 急速施工等)
- (13) 保安施設設置図
- (14) その他

工事写真等 (工事写真撮影基準による)

現況・完成写真



事業説明図(位置・平面図等)



土木工事検査書類作成マニュアル

平成25年4月	制定
平成30年4月	改定
令和5年7月	改定
令和8年3月	改定

編集・事務局
横浜市道路局技術監理課